第６回　水稲病害虫発生予察情報　令和４年９月７日調査

調査機関：神戸市西農業振興センター・神戸農業改良普及センター・JA 全農兵庫県本部
兵庫県農業共済組合・農薬、肥料メーカー・JA 兵庫六甲
発　　行：JA 兵庫六甲神戸西営農総合センター

【9 月 7 日（水）　病害虫発生状況】

病害虫	発生程度	発生予想	薬剤	10a 当り使用量	使用時期	使用方法	使用回数
紋枯病	平年並	やや少	バリダシン液剤 5	1000 倍 60～150ℓ/10a	収穫 14 日前まで	散布	5 回以内
カメムシ類	少	やや多い	下表、ウンカ類・カメムシ類対策参照				
トビイロウンカ	少	やや少					
セジロウンカ	少	平年並					
ヒメトビウンカ	平年並	やや多い					

≪トビイロウンカ（秋ウンカ）≫

今回の調査では、西区管内で捕獲されませんでしたが兵庫県下では発生が確認されております。今後、甚大な被害は少ないと予想されますが、「あきだわら」「ヒノヒカリ」「もち米」等の晩生品種については、圃場をよく観察していただき、発生が確認されたら早急に防除して下さい。

★トビイロウンカは稲の株元に生息していますので、株元をよく観察して下さい。

ウンカ類・カメムシ類対策

薬剤名	対象害虫	10ａ当り使用量	使用時期	使用回数
スタークル粒剤	ウンカ類、カメムシ類、	3ｋｇ	収穫７日前まで	合計３回以内
スタークル豆つぶ	ウンカ類	250～500ｇ		
	カメムシ類	250ｇ		
スタークル顆粒水溶剤	ウンカ類	3000倍 60～150ℓ		
	カメムシ類	2000倍 60～150ℓ		
トレボン乳剤	ウンカ類、イナゴ類	1000～2000倍 60～150ℓ	収穫１４日前まで	合計３回以内
	カメムシ類	2000倍 60～150ℓ		
なげこみトレボン	ウンカ類	水溶性容器10個 (500ml)	5葉期以降 収穫21日前まで	

収穫について

【水管理】 収穫が１０月以降の品種では、早期落水をせず、(落水までは)間断かん水に努めましょう。
落水は、圃場の乾燥状況に注意して刈取り７日前を目安に行って下さい。
早期落水は、粒張りを悪くし、乳白米や腹白米の発生など、米の品質を悪くします。

【刈取り】 刈取り適期は、85%以上のモミが黄化する頃です。
圃場状態、稲の状態をよく確認し、適期の刈取りに努めましょう！
きぬむすめは遅れ穂が比較的出やすく、全体の成熟期が見にくい傾向にあります。
圃場に入って数ヶ所から穂をとり、黄化モミの割合を観察することをお勧めします。

【９～１０月のカントリー荷受け】

コシヒカリ	９月　３日（土）～　９月２５日（日）
きぬむすめ	９月２７日（火）～１０月１４日（金）
ヒノヒカリ	１０月　８日（土）～１０月３１日（月）
飼料用あきだわら	１０月１５日（土）～１０月３１日（月）

【荷受け休業日】
９月１２日(月)、２０日(火)、２６日(月)、
１０月３日(月)、１１日(火)、１７日(月)、
２４日(月)

☆水稲栽培日誌の記帳を必ず行い、刈取り・出荷の一週間前までに JA の各支店までご提出ください。

第５回　水稲病害虫発生予察情報　令和４年８月 24 日調査

調査機関：神戸市西農業振興センター・神戸農業改良普及センター・JA 全農兵庫県本部
兵庫県農業共済組合・農薬、肥料メーカー・JA 兵庫六甲
発　　行：JA 兵庫六甲神戸西営農総合センター

【8 月 24 日（水）　病害虫発生状況】

病害虫	発生程度	発生予想	薬剤	10a 当り使用量	使用時期	使用方法	使用回数
紋枯病	平年並	やや少	バリダシン液剤 5	1000 倍 60～150ℓ/10a	収穫 14 日前まで	散布	5 回以内
カメムシ類	少	やや多い	下表、ウンカ類・カメムシ類対策参照				
トビイロウンカ	少	平年並					
セジロウンカ	少	平年並					
ヒメトビウンカ	平年並	やや多い					

≪トビイロウンカ（秋ウンカ）≫

西区管内２地区と兵庫六甲管内の他地域でも確認されています。今後の発生予想は「やや少」と予想されています。トビイロウンカが多発した場合は坪枯れや収量にも影響しますので、圃場をよく観察していただき、発生が確認されたら早急に防除して下さい。

トビイロウンカは稲の株元に生息していますので、株元をよく観察して下さい。

≪カメムシ類≫

西区管内の発生程度は少ないですが確認されています。今後も「やや多い」と予想されていますので、ヒノヒカリ等の晩生品種は出穂５～７日後に「スタークル粒剤、豆つぶ」等で防除をして下さい。

≪紋枯病≫

西区管内の発生程度は少しずつ増えてきております。今後の発生予想は「やや少」と予想されていますが、過去に発生した圃場は、発生しやすいためよく観察して下さい。

紋枯病が株元から上位第３葉の葉鞘まで発生した場合は防除をして下さい。

ウンカ類・カメムシ類対策

薬剤名	対象害虫	10ａ当り使用量	使用時期	使用回数
スタークル粒剤	ウンカ類、カメムシ類、	３ｋｇ	収穫７日前まで	３回以内
スタークル豆つぶ	ウンカ類	250～500ｇ		
	カメムシ類	250ｇ		
スタークル顆粒水溶剤	ウンカ類	3000倍 60～１５０ℓ		
	カメムシ類	2000倍 60～１５０ℓ		
トレボン乳剤	ウンカ類、イナゴ類	1000～2000倍 ６０～１５０ℓ	収穫１４日前まで	３回以内
	カメムシ類	2000倍 ６０～１５０ℓ		
なげこみトレボン	ウンカ類	水溶性容器10個 (500ml)	5葉期以降 収穫21日前まで	３回以内

水稲栽培日誌の記帳を行い、ＪＡ出荷の場合は、
刈取り・出荷の一週間前までに各支店へご提出下さい。

第４回　水稲病害虫発生予察情報　令和４年８月 10 日調査

調査機関：神戸市西農業振興センター・神戸農業改良普及センター・JA 全農兵庫県本部
兵庫県農業共済組合・農薬、肥料メーカー・JA 兵庫六甲
発　　行：JA 兵庫六甲神戸西営農総合センター

【8 月 10 日（水）　病害虫発生状況】

病害虫 雑草	発生 程度	発生 予想	薬剤	10a 当り 使用量	使用時期	使用方法	使用 回数
カメムシ類	少	やや 多い	スタークル 粒剤（※）	3kg	収穫７日前まで (出穂してから５日前後が効果的)	散布（ひたひた水～3cm）	３回 以内
トビイロウンカ （秋ウンカ）	少	並					
セジロウンカ	少	並	スタークル 豆つぶ(※)	250g (ｶﾒﾑｼ類) 250～500g (ｳﾝｶ類、 ﾂﾏｸﾞﾛﾖｺﾊﾞｲ)	収穫７日前まで (出穂してから５日前後が効果的)	散布（湛水3～5cm）	３回 以内
ヒメトビウンカ	少	やや 多い					

（※）スタークルは「粒剤」か「豆つぶ」どちらかを選択して下さい。

≪トビイロウンカ（秋ウンカ）≫

西区管内1地区で、**トビイロウンカ**と見られる成虫が捕まりました。（現在、確認中）
トビイロウンカが多発した場合は坪枯れや収量にも影響しますので、圃場をよく観察していただき、発生が確認されたら早急に防除して下さい。

≪カメムシ類≫

西区管内の発生程度は少ないですが確認されています。今後も「**やや多い**」と予想されていますので、「ヒノヒカリ」等の晩生品種は**出穂２週間前までに畦畔の草刈り**をして下さい。出穂5～7日後に「スタークル粒剤、豆つぶ」等で防除をして下さい。
また、県内ではイネカメムシが多く発生している地区があります。イネカメムシは吸汁量が多く不稔穂を発生させ収量への影響が大きいため上記同様に防除して下さい。

大雨対策

近年、線状降水帯のような大雨による被害が全国各地で発生しております。
天気予報等を確認しながら事前事後対策をして下さい。

【事前対策】
圃場の排水溝を確認して下さい。排水口が詰まらないように、周辺の草やゴミを取り除いて下さい。

【事後対策】
危険な個所が無いか十分注意し、危険な個所には近づかないで下さい。冠水被害を受けた圃場は速やかに水を落として下さい。

日中の作業はできるだけ避け、水分補給をしっかり行い熱中症防止に努めましょう！

☆水稲栽培日誌の記帳を行いましょう！

第３回　水稲病害虫発生予察情報　令和４年７月 27 日調査

調査機関：神戸市西農業振興センター・神戸農業改良普及センター・JA 全農兵庫県本部
兵庫県農業共済組合・農薬、肥料メーカー・JA 兵庫六甲
発　　行：JA 兵庫六甲神戸西営農総合センター

【7月27日（水）　病害虫発生状況】

病害虫 雑草	発生 程度	発生 予想	薬剤	10a 当り 使用量	使用時期	使用方法	使用 回数
カメムシ類	少	やや 多い	スタークル 粒剤（※）	3kg	収穫７日前 (出穂してから５ 日前後が効果的)	散布（ひた ひた水～ 3cm）	３回 以内
セジロウンカ	少	並					
ヒメトビウンカ	少	やや 多い	スタークル 豆つぶ(※)	250g (ｶﾒﾑｼ類) 250～500g (ｳﾝｶ類、 ﾂﾏｸﾞﾛﾖｺﾊﾞｲ)	収穫７日前 (出穂してから５ 日前後が効果的)	散布（湛水３ ～5cm）	３回 以内
紋枯病	少	並	モンカット粒剤	3～4 kg	出穂 30～10 日 前、但し収穫 14 日前まで	湛水散布	３回 以内

(※)スタークルは「粒剤」か「豆つぶ」どちらかを選択して下さい。

≪カメムシ類≫

今回の調査で一部の地域にて発生が確認されています。今後も「**やや多い**」と予想されていますので、**出穂２週間前までに畦畔の草刈り**をして下さい。出穂５～７日後に「スタークル粒剤、豆つぶ」等で防除をして下さい。　**※例年、等級落ちの原因の上位は「カメムシ被害」です。**

≪紋枯病≫

今回の調査で一部の地域にて発生が確認されています。茎数が多いと風通しが悪くなり発生が助長されますので、圃場をよく観察して早期発見に心がけましょう。

※特に昨年度に紋枯病の発生が多かった圃場は、今年も発生する恐れがあるため注意が必要です。

≪トビイロウンカ≫

今回の調査では飛来は確認されておりませんが、過去に甚大な被害がありましたので、今後もご注意下さい。

出穂前後の水管理

①出穂１カ月前には、中干しを終わらせましょう！
②中干し後は、間断潅水を行い、根に酸素を供給しましょう！
③出穂前後（出穂前１週間～出穂後１週間）は稲が水を必要とするので、湛水管理をしましょう！（高温時は、水を入れ替えて下さい）

早期落水は未熟粒・死米・乳白・胴割れの原因となるため注意！！！

日中の作業はできるだけ避け、水分補給をしっかり行い熱中症防止に努めましょう！

☆水稲栽培日誌の記帳を行いましょう！

第２回　水稲病害虫発生予察情報　令和４年７月 13 日調査

調査機関：神戸市西農業振興センター・神戸農業改良普及センター・JA 全農兵庫県本部
兵庫県農業共済組合・農薬、肥料メーカー・JA 兵庫六甲
発　　行：JA 兵庫六甲神戸西営農総合センター

【7月 13 日(水) 病害虫発生状況】

今回の調査では病気の発生はほとんどなく、ウンカ類が少し見られる程度でした。

今年は、梅雨の期間も短く高温少雨のため、水稲の生育が進む傾向です。早生品種（早期コシヒカリ、コシヒカリ）で出穂が早まる可能性があるため、よく圃場を観察し出穂期防除のタイミングに気を付けてください。また、中生・晩生品種（きぬむすめ、ヒノヒカリ）は、茎数（分げつ数）が多い傾向ですので、早めの中干しを行ってください。

適切な中干しを行いましょう！

田植後の生育状況を確認し、目標茎数（２０本）の約８割が確保された頃に、田の表面に足跡が残る程度の中干しを行いましょう。無効分げつの発生を抑え、根を健全に深くのばします。

〇高温・多照　の場合

中干しを短縮し、穂肥をやや遅らせ量を増やし、出穂 1 週間以降は水を入れ替えて水温を下げるなどの対策をとりましょう。

〇高温・日照不足・多雨　の場合

もみ数を減らすため、中干しを強めに行いましょう。
また穂肥をやや遅らせましょう。

雑草対策！※詳細は水稲栽培暦を参照

雑草・藻の多発田では、肥料分が吸われてしまったり、水稲の生育を抑制しますので対策を！
畔際に多いキシュウスズメノヒエ、イボクサ、クサネムは、あらかじめ手取りで除草した後に除草剤を散布しましょう。

☆ 中干しがまだの圃場･･･【サンパンチ１キロ粒剤】湛水散布。収穫６０日前まで。
☆ ホタルイ多発の圃場･･･【バサグラン液剤】収穫５０日前まで。
落水散布又はごく浅く湛水して散布。※高温時薬害注意
☆ 藻類多発の圃場　　･･･【モゲトン粒剤】湛水散布。収穫４５日前まで。

カメムシ類対策　～早期コシヒカリは草刈りの時期が大切！～

出穂２週間前までに、**水田周辺のイネ科雑草の草刈り**を完了！
時期が遅れると乳熟期にカメムシ類を田んぼへ追い込んでしまうので注意！！
出穂後５～１０日頃　　**スタークル粒剤（３kg／10ａ）**もしくは
スタークル豆つぶ（250ｇ／10ａ）で防除しましょう。

出穂前後の水管理が大切です！！

中干し後の水管理は間断潅水で、根の活力を維持しましょう。出穂前後 1 週間は湛水状態を保ち（高温時は、水を入れ替えて下さい）、以降はもみを充実させるため間断潅水を行いましょう。

☆水稲栽培日誌の記帳を行いましょう！

第１回　水稲病害虫発生予察情報　令和４年６月２２日調査

調査機関：神戸市西農業振興センター・神戸農業改良普及センター・JA 全農兵庫県本部
兵庫県農業共済組合・農薬、肥料メーカー・JA 兵庫六甲
発　　行：JA 兵庫六甲神戸西営農総合センター

今年も水稲病害虫発生予察が始まりました！管内の圃場を調査し、9月上旬まで2週間に1度、6回の発生予察情報をお届けする予定です。

【6月22日（水） 病害虫発生状況】

・一部圃場に「ヒメトビウンカ」の発生がみられましたが**発生程度は少ない**です。
・今年は兵庫県病害虫防除所より「**ヒメトビウンカ**」の発生予想は「**やや多い**」と予想され、「いもち病」の発生予想は「平年並み」と予想されています。置苗は「いもち病」の感染源になりますので、早期に処分して下さい。
・「**ジャンボタニシ（スクミリンゴガイ）**」に注意してください。発生地域の拡大を防ぐために、圃場をよく注意して観察し、適切な防除をして下さい。鮮やかなピンク色の卵は水中では孵化しないので、卵塊を見つけたら水中にかき落としてください。孵化直前の赤黒い卵は必ず潰しましょう。

薬剤	適用病害虫	使用時期	10aあたり使用量	使用回数
スクミノン	スクミリンゴガイ	収穫60日前まで	1～4kg	2回以内

【とりこぼし雑草の防除を行いましょう！】

・一部圃場において、藻類の発生と雑草が見られました。手遅れにならないよう、適期に防除をして下さい。

薬剤	適用雑草	使用時期	10aあたり使用量	使用回数
アトカラS ジャンボMX	一年生雑草・ホタルイ・クログワイ・オモダカ・キシュウスズメノヒエなど	移植後14日～ノビエ3.5葉期 ただし、収穫45日前まで	小包装 20個（500g）	1回
サンパンチ 1キロ粒剤	一年生雑草、アオミドロ・藻類による表層はく離、キシュウスズメノヒエ	移植後15日～ ノビエ3．5葉期 （収穫60日前まで）	1kg	1回
バサグラン 液剤	水田一年生雑草（イネ科を除く）・ホタルイ・クサネム・オモダカ・クログワイなど	移植後15～55日 （収穫50日前まで）	500～700ml （散布液量 70～100L）	2回以内
モゲトン粒剤	ウキクサ類、藻類（アオミドロ・アミミドロ）	ｳｷｸｻ類・藻類の発生始～ 発生盛期（収獲45日前まで）	2～3kg	3回以内

※農薬の使用は、必ず農薬容器、袋のラベル等の記載内容を確認し、適正な方法で使用してください。

【今後の水管理】

・分げつが進んでいる圃場もあります。田植後の生育状況を確認し、目標茎数の約8割が確保できた頃に田の表面に足跡が残る程度の中干しをして下さい。土中へ酸素を供給し、根を健全に保ちます。
・今後の気温の上昇により「ガス」が湧きやすくなります。ひどい圃場については2、3日落水し「ガス」抜きをして下さい。